

編集後記

賛金支援に感謝です。

(長沼)

◆本文にある氏原さんの手造りスピーカーを2・3種類聴かせてもらったことがあります。確かに自然に近い音が聴け、感心したものです。但し耳には自信ありませんが。

（伊原）

◆コロナ、ウクライナ、元首相暗殺、水害列島と暗いニュースが続きました。元水泳の新編集長が「稻穂」完成まで確り牽引し、同窓生の生き様が感動を呼ぶ第19号が出来ました。

（大原）

◆コロナ禍により『稻穂』編集はweb会議主体で実施されました。私はほぼ完成了

た皆様の貴重かつ格調高い原稿を読ませて頂いたのみでした。広告等で協賛頂いた方々に感謝申し上げます。（岡田）

◆埼玉の片田舎に居を構えてから約10年、首都圏の職場に通うには不便だが飯田と似た田園風景に心癒されている。昨今はこの、長い通勤時間を使い指マッサージでチ健康管理工作をしている。（榎原）

◆本年、コロナ禍にあって、3年間の総合人生大学を卒業しました。高齢化で残る人生、少しでも自己活性化を図り、周囲のお役に立ち、頑達に過ごしたいとの思いでした。今後も頑張ります。（佐々木）

◆同窓会本部の新聞への原稿を頼まれ、久しぶりに「原稿を依頼される側」になりました。この気持ちを忘れないように思います。（菅沼）

◆今回から編集委員として関わっていた飯田愛を感じました。「稻穂」を通じ様々

な世界で奮闘する方々の想いが伝わればと思います。

◆コロナ感染拡大が治まらない、そんな中でも『稻穂』を通して故郷への思いと繋がりに触ることのできた編集作業に感謝でした。また、皆様からの協賛広告・協

◆文は人なり。冗長・簡潔 文節の長短、句読点の多寡、漢字あるいは外来語の多用、慣用句や接続詞の好みなど、みんな個性です。筆者の息遣いが伝わる人となりが浮かび上がる編集が理想です。（原）

◆墓歩きには自信があつたのに初めての松本市蟻ヶ崎霊園では立ち往生した。携帯電話を持たない一人旅の老人に松本の人々は実際に優しく親切だった。今でも思い出すだけで胸が熱くなる。（牧内）

◆校正用に印刷した原稿の文字が小さくて、いよいよ見えなくなりました。P.C.のモニターフィルムに拡大して読むことにしました。（松原）

◆コロナ禍で、月1回のオンライン編集会議は辛かったです。体調不良もあり、取り組む気持ちも希薄になりました。

（三ツ橋）

◆同窓会本部の編集委員は茂木立みどり（高36回）

◆特別編集委員 牧内雪彦（中47回・高1回）

◆副編集長 長沼 寛（高21回）

◆編集長 原 誠（高23回）

◆編集委員 同 同（高23回）

◆編集委員 同 同（高23回）

◆編集委員 同 同（高23回）

◆編集委員 同 同（高23回）



月1回の編集会議は今年もzoomで

『稻穂』 第19号

発行 在京飯田高校同窓会

T101-0047
東京都千代田区内神田1-18-1
イワカタビル4F
本島信法律事務所内

03-5217-0666

発行日 2022(令和4)年10月1日

松原秀幸（高19回）

発行人 松原秀幸（高19回）

編集長 原 誠（高23回）

副編集長 長沼 寛（高21回）

編集委員 茂木立みどり（高36回）

特別編集委員 牧内雪彦（中47回・高1回）

編集委員 佐々木康夫（高15回）

編集委員 伊原信夫（高12回）

編集委員 大原 直（高21回）

編集委員 三ツ橋史緒子（高22回）

編集委員 岡田峯明（高25回）

編集委員 榎原雅直（高31回）

編集委員 菅沼大樹（高51回）

編集委員 酒井 崇（高49回）

（茂木立）